せいけん詩集

第二十二篇

作：近藤せいけん

「行ったり　来たり」

私はいつもの田んぼの小路を　歩く
今は秋　やっと涼やかな　風が　頬にかかる
周りは黄金色の　稲穂が揺れる
すずめ達が忙しそうに　飛びかう
赤トンボも　群れている
私は大山にかかる雲を　見上げながら
小路を　行ったり　来たり
何もするわけではない　空気に溶け込むのを
楽しんでいる

田んぼに　やって来る　すずめ達を
追い払う　ボン～という　大きな音
一斉にあわてて　すずめ達が飛び去る
黄金色の　稲穂が揺れる
頭上に来た　雲を見上げる
田んぼの　小路を　行ったり　来たり
何もするわけではない　空気に溶け込むのを
幸せだと　思っている